

## 第 17 回(令和 7 年度第 1 回) 東京女子医科大学病院医療安全監査 議事要録

日 時 :2025(令和 7)年 8 月 21 日(水) 14:00~16:05

場 所 :総合外来センター5階大会議室

監査委員:(敬称略)

委員長 小川 秀興 (学校法人 順天堂 理事長)(A)

委 員 小林 弘幸 (順天堂大学 大学院医学研究科病院管理学 教授)(A)

委 員 中村 芳夫 (日本心臓財団代表理事)(C)

委 員 坂東 真理子 (学校法人 昭和女子大学 総長)(C)

委 員 岩田 喜美枝 (社外取締役 味の素等)(C)

委 員 小海 正勝 (本学顧問弁護士(医療分野専門)、高田・小海法律事務所)(B)

A: 医療に係る安全管理に関する識見を有する者

B: 法律に関する識見を有する者

C: 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者

監査内容:

### 1. 前回監査における指摘事項に関する改善点や変更点等について

#### (1) 前回監査での指摘事項に対する分析と課題

- ・病院としての医療安全に関するビジョン、取り組み

### 2. その他事項

(1) 令和 6 年度の転倒におけるインシデント・アクシデントの対策、転倒防止のための工夫などについて

(2) 最近の薬剤(麻薬等)に関するインシデント・アクシデントの事例や対策、教育体制などについて

(3) 直近に実施された、患者満足度および職員満足度のアンケート調査について

### 3. 前回以降に取り組まれた課題、その他(病院でのアピール点、取り組みなど)

- ・医療安全啓発センター開設における準備状況
- ・チーム医療推進の取り組みについて

監査委員による講評

- ・ 医療安全活動を体系的に整理し、数値目標・進捗を明示すること。
- ・ 外部発信や情報公開を積極的に行い、社会的責務を果たすこと。
- ・ 「患者参加型」と「市民参加型」の概念整理と推進状況を明確化すること。
- ・ アンケート調査は改善度合いを測る指標として活用していただきたい。

- 医療従事者への教育を継続的かつ拡充して進めること。
- 転倒・転落や薬剤インシデント等について具体的施策と評価方法を示すこと。
- 女子医大の取組の進展を高く評価し、「女子医大方式」としての医療安全モデルを確立してほしい。

#### 今後の課題

- 医療安全文化の定着を重視。従来の大枠方針から、今後は数値や key performance indicator (重要業績評価指標)を用いた具体的評価へと進める必要がある。
- 転倒防止・薬剤安全対策ではチェック体制を強化し、インシデント分析を踏まえて改善を継続する。
- IC における看護師の役割を再評価し、IC の客観的記録化(録音・電子署名など)を含めて説明補助やフォロー体制の整備をおこなう。
- 外部向け発信は患者・家族・市民に分かりやすい形で情報提供をおこなう。
- 医療安全啓発センターは立ち上げ段階であり、障害者雇用等も取入れて、今後成果を定量的に提示する必要がある。